



燃え尽きない心

斉藤 伸一

東日本高速道路
取締役兼専務執行役員

プロ野球選手の山本昌投手は48歳、サッカー選手の三浦知良選手は46歳、現役テニスプレーヤーのクルム伊達公子選手は43歳である。大方の選手はとっくに引退しているのに、年齢による衰えをモノともしない彼らの活躍と動向が気になって仕方がない。

ところで私の趣味だが、35歳のころからテニスを始めた。学生時代にラグビーをやっていたので体力には自信があったが、社会人になって仕事に追われる日々が続き、35歳の時に気付いたら、体は崩れ体重は30キロも増えてしまっていた。なんとかしないといけないと思っていたときにテニスと巡り会った。熱心なコーチに基礎からみっちり学んだ。以来、27年間テニスにはまっている。

ゴルフも止めてテニス一筋、近ごろはテニスコートに行く機会が減ってしまったが、還暦を迎えるころまで、ずっと週末(土日)はテニスコートで過ごしてきた。朝の9時半から12時までには練習をみっちりやり、午後は4時ごろまでゲームをやる。そんなハードなテニスをやってきた。50歳代前半までは若者に交じってテニスの草トーナメントに出たり、若者たちとチームを組んで団体戦にも出ていた。さすがに55歳を超えるころからさっぱり勝てなくなった。いい歳をして年齢別には目もくれず一般男子のカテゴリーにこだわったが、やはり山のような敗戦ばかり。折れそうな心を支えてくれたのは、まれにまれに起こる奇跡だった。息子のような若者に勝つことがある。そういう試合は、決まって辛抱して辛抱してボールを拾って拾っているうちに、相手が崩れてしまったというパターン。だからカッコイイ勝ち方ではないが、テニスを続ける糧になった。さすがに還暦を越えてからは奇跡はない。振り返ってみると、負けたときにどこか心の隅の方で年齢を言い訳にしている自分がいると気付いたときから、奇跡はほとんど起きなくなったように思う。

山本選手、三浦選手やクルム伊達選手の年齢の壁を越えた活躍の秘密は何だろう。衰えることのない勝利への闘志だろうか。名を遂げてなお彼らを突き動かすものは何だろう。燃え尽きない心の源泉を知りたい。